



—イラク戦争に反対した
元外交官の最後の提言—
天木 直人

石破はトランプに
こう向き合え!



ISBN978-4-88546-458-4
C0095 ¥1600E

定価 1760 円
(本体 1600 円+税 10%)



展望社



緊急出版!

石破総理へ 最後の提言!

展望社

天木
直人

1. 石破総理は、中東の危機回避の仲介役を果たせ―152
2. 八〇年談話を発表して歴史認識問題に終止符を打て―158
3. 李在明大統領の誕生を日韓関係構築のチャンスと捉えよ―160
4. 金正恩総書記と首脳会談し日朝国交正常化を実現せよ―161
5. 習近平主席の国賓来日を実現し日中関係を改善せよ―166
6. プーチン大統領に首脳会談を呼びかけて日韓関係を再出発させよ―170
7. 李氏朝鮮王陵にあった石人像の返還と上皇訪韓の実現―173
8. 世界を平和に導くことになる日韓海底トンネル建設―178

おわりに―185

第一章 今日の世界の混乱を予言していたレバノン

中に、いや一刻もはやく、上皇ご夫妻の訪韓を実現すべきであると思う。

8. 世界を平和に導くことになる日韓海底トンネル建設

私が日韓海底トンネル建設プロジェクトのことを知ったのは、このプロジェクトが二〇二一年四月に韓国で行われたソウル市長選挙の争点になったことを当時の報道で知ったからだ。

すなわち、このプロジェクトを経済発展の起爆剤にしようと訴えた与党候補に対し、野党候補は、日韓海底トンネルのルートが日本の唐津（佐賀県）から壱岐、対馬を通って釜山に至るルートであるので、豊臣秀吉の朝鮮侵略と同じルートであり、だから過去の不幸な事件を髣髴させるから反対だというのだ。

しかし、当時の与党は文在寅政権でいわゆる左翼政権だ。他方で野党は保守の「国民の党」の候補者で歴史認識問題よりも経済を重視する現実主義の党だ。左翼候補が進めようとして、保守候補が反対していたのだ。逆ではないのか。だったら政権

交代した今ならそれができる。しかも韓国は今や与党も野党も日韓関係重視で一致している。だから与党も野党も日韓海底トンネル構想に反対する理由はなくなったはずだ。これはチャンスだ。

私はむしろ日韓海底トンネルのルートが豊臣秀吉の朝鮮出兵のルートであることこそ平和の象徴になると考える。すなわち過去の不幸な出来事を克服し、日韓両国が未来志向で共同プロジェクトを実現し、ともに日韓両国の経済発展に役立たせる。これこそが未来志向の本物の日韓協力であり歴史認識問題克服の最善策に違いない、そう考えるのである。

ところが私が日韓海底トンネル建設プロジェクトを進めようとした矢先に、日本で統一教会問題が起きた。すなわち二〇二二年七月、安倍総理が、統一教会に恨みを抱いた信者の子息から殺されるという衝撃的な事件が起きた。

この事件が起きて、統一教会問題が日本を揺るがす大問題になって今日に至っている。その上になんと日韓海底トンネル建設構想が、統一教会が主導したプロジェクトだったことが判明したのだ。



野澤太三氏と筆者

実現は主人（安倍晋三）の悲願でした。この一大経済開発プロジェクトを通じて日韓友好関係を実現したい、そのためぜひともトランプ大統領の協力が得たい、晋三もそう願っていました、そうメ

ことがあった。その時トランプ大統領は興味を示し、身を乗り出して熱心に話を聞いてくれたと。
この話を聞いて私は直感した。トランプ大統領をその気にさせる事こそ、日韓海底トンネル構想実現の最善、最短の方策だ、これしかない、と。
それでは、トランプ大統領にその気にさせるにはどうすればいいか。最善の方法は安倍昭恵さんがメラニア夫人に次のように頼むことだ。日韓海底トンネル構想の

こうなってしまったら統一教会問題が解決しない限り、誰も日韓海底トンネルプロジェクトを推進しようと考えてる者は出てこなくなる。
しかし日韓海底トンネル建設構想の本来の意義までも否定されるべきではない。そう信じて、統一教会とは一線を画して熱心に取り組もうとしている人を私は見つけた。その人こそ、日韓トンネル研究会の野澤太三会長だった。「だった」と書いたのは野澤さんは昨年一二月に逝去され、もうこの世にいないからだ。旧国鉄出身の工学博士で小泉政権の法務大臣を務めたことのある野澤さんは、私がイラク戦争に反対して外務省から辞職を迫られたことをもちろん知っていた。知っていながら私を評価してくれて、日韓関係についても歴史認識問題を取り越えて真の日韓友好関係を作ることが重要だ、是非とも実現しなくてはいけない、その際には日韓海底トンネルこそ最適のプロジェクトになると、熱っぽく語っていた。私もまったくその通りだと強く共感した。

その野澤さんが生前私にこう語ってくれたことがあった。トランプ大統領の一期目の時に、日韓トンネル研究会がトランプ大統領に日韓海底トンネル構想を話した

ラニア夫人伝え、私と一緒にトランプ大統領に会っていただけませんかと頼むのだ。将を射んと欲すればまず馬を射よ、のたとえだ。日韓海底トンネル構想に関心を示していたトランプ大統領が飛びつくことは間違いない。

しかし、私には昭恵夫人に直訴する人脈はない。それにやはり石破総理と李在明大統領の合意で動かしてもらいたい。

私の戦略はこうだ。

まず、日韓両首脳が、日韓海底トンネル構想こそ、歴史の負の遺産を克服し、未来志向の日韓関係構築に向けて歩み出す象徴的プロジェクトであることで一致する。その合意は、韓国に李在明大統領が誕生したことでチャンスが来たのだ。本来は石破総理の方から言い出してもらいたいのだが、統一教会が発案したプロジェクトだから言い出せない。そこで李在明大統領の方から言い出してもらってそれに石破総理が賛同すればいいのだ。しかも李在明大統領は韓国のトランプ大統領と言われている。李在明大統領は積極的にトランプ大統領にこの構想を話してくれるだろう。

しかし、トランプ大統領に話す前に、日韓両首脳は、まず習近平主席に次のように話して日韓海底トンネル構想への支持と協力を得るべきだ。すなわち、日韓海底トンネルプロジェクトを一带一路構想の東アジアの出発点のプロジェクトとしたいから資金協力をお願いしたい。このプロジェクトは日韓二国間のプロジェクトにとどまらず、ソウルから平壤、瀋陽を経由して北京をリニア新幹線で結ぶ、日本・韓国・北朝鮮・中国の経済圏開発のプロジェクトにさせたい。それどころか、最終的には欧州の主要都市を結ぶシルクロードの現代版にしたい。そして、そのためには、トランプ大統領の理解と参加を得て、米中対立から米中ウインウインの平和のプロジェクトにしたい。その為にはこのプロジェクトを習近平主席からトランプ大統領に話して、トランプ大統領の協力を取り付けてもらいたい。そう言って習近平主席に花を持たせるのだ。トランプ大統領はすでにこの構想についてかつて興味を示したことがあるから興味を示すこと間違いない。

そして習近平主席がトランプ大統領を説得し、金正恩の北朝鮮もプーチンのロシアもこの共同プロジェクトに参加させることができれば、世界最大の平和プロジェ

クトになる。

巨額の建設予算は各国の経済を活性化させ、巨大な雇用を創出し、沿線の主要都市は流通・観光の要所として栄え、至る所にトランプタワーを建ててトランプ大統領を喜ばせることができる。

この夢を、私は野澤太三氏と一緒に実現したかったのだが。その矢先に野澤氏は先立たれた。無理もない。野澤氏は九〇歳を超えた高齢だった。だからこそ私は日韓海底トンネル構想に賭けた野澤さんの夢を石破総理に伝えて実現してもらいたいのだ。

そう思つてこの原稿を書いている五月四日に、NHKBSが「疾走 タクラマカン砂漠鉄道」というドキュメンタリー番組を流した。こんな大きな事業が中国の独自の力で昨年の暮れに完成していたのだ。しかもさらに発展中だと言う。まさに日韓海底トンネル構想は中国の協力を得て共同プロジェクトに出来る基盤が整っているという事だ。あとは誰がこの構想の実現に向けて動き出すかだ。それができるのは石破総理しかないではないか。

おわりに

これで石破総理に対する私の「最後の提言」は終わるはずだった。

しかし、七月三日の朝日新聞が、「トランプ大統領のイラン攻撃は国際法違反だ」と断言する竹内行夫元外務次官のインタビュー記事に掲載した。

それを偶然見つけた私はどうしても書かずにはいられなかった。これから書く文章で、この本を終える事にしたい。

この本で明らかにした通り、竹内行夫元外務次官は、二〇〇三年のブッシュ大統領のイラク攻撃を、国際法違反だと知りながら、保身の為に小泉純一郎元総理のイラク攻撃支持をお膳立てした。「それはおかしい」とレバノンから反対した私に激怒し、私に辞職を迫った。京都大学法学部で、ともに国際法を学んだ二年先輩、後輩の間柄だ。外務官僚としても一九六七年入省の彼と一九六九年入省の私とは二年先輩、後輩の間柄だ。

その彼が立身出世を遂げ、今や現役引退した後で、口を極めてトランプ大統領の

著者略歴

天木 直人（あまき なおと）

1947 年、山口県生まれ。

1969 年、京都大学法学部中退、外務省入省。

1972 年、米国オハイオ州オーバリン大学卒業。

在マレーシア、豪州、カナダ日本国大使館公使、在デトロイト日本国総領事を経て、2001 年 2 月から在レバノン日本国特命全権大使。

2003 年 8 月、米国のイラク攻撃に反対する意見を日本政府に具申して勇退を迫られる。

その後、作家、外交評論家、新党憲法 9 条代表として今日に至る。

主な著書に「さらば外務省！」（講談社）、「さらば日米同盟！」（講談社）、「自立する国家へ！」（ベスト新書）、「マンデラの南アフリカ」（展望社）、「沖縄よ！ウクライナにナルナ」（展望社）など多数



石破総理はトランプ大統領にこう向き合え！

—イラク戦争に反対した元外交官の最後の提言—

2025 年 8 月 27 日 第 1 刷発行

著／天木 直人

発行人／唐澤明義

発行所／株式会社展望社

〒112-0002 東京都文京区小石川 3-1-7 エコービル 202

TEL：03-3814-1997 FAX：03-3814-3063

<http://tembo-books.jp>

印刷：株式会社ディグ

ISBN 978-4-88546-458-4 定価はカバーに表記